

伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組について



目次



第1章 伊勢志摩サミットとは

第2章 伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組

第1章



第1章 伊勢志摩サミットとは

3

G7/8サミットとは？



(サミットとは)

○サミットとは、日、米、英、仏、独、伊、加、露8か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議のことである。

ウクライナ情勢を受けたロシアのG8への参加停止により、2014年以降はG7サミットになっている。

注) G7/G8とは、一般的に首脳会議に参加する7/8ヶ国の総称としての Group of Seven / Group of Eightを意味。

○サミットは国の行事であり、首脳会議をはじめ、首脳の配偶者の方々が参加される配偶者プログラムや、サミットで取り上げられる国際問題を子どもたちの視点で話し合い、首脳陣に提言するジュニアサミット等の公式プログラムが執り行われるが、国が対応することとなる。

○サミットでは、国際社会が直面する様々な地球規模の課題について、首脳は一つのテーブルを囲みながら、自由闊達な意見交換を通じて、物事を決定。グローバル化が進むと、世界各国の相互依存関係が進み、物事が展開する速度が速くなり、その影響するところも国境を越えて大きくなるが、それらに有効に対処するためには、首脳のリーダーシップが必要。

サミットを開催する国は、開催する年の1月～12月の1年間、サミット議長国となり、議長国は、サミット開催に向けた諸準備や議事進行を行う(日本は2016年1月から議長を務めている)。

通常、テーマ、公式プログラム、ロゴマーク等は、1月に議長国が変更されて以降に決定される。

4

G7/8サミットの変遷



【サミットの誕生(第1回サミット:1975年11月)】

- ・ニクソン・ショック(金・ドル兌換停止)(1971年)、第一次石油危機(1973年)
- ⇒先進国におけるインフレ発生等の経済危機

【G7/8サミットにおける期間ごとの主なテーマ】

- ①1970年代:石油危機からの回復に向けて
 - ・経済政策、国際通貨、貿易問題、エネルギー問題等の先進国経済中心の議論
- ②1980年代:経済問題の多様化と東西政治対立の激化
 - ・経済:政策協調の本格化、新興工業国等への協調の拡大、経常収支不均衡問題等
 - ・政治:ソ連のアフガン侵攻、中距離核戦力削減等の安全保障問題等
- ③1990年代:東西冷戦構造の終焉とグローバル化の進展
 - ・経済:旧ソ連・東欧地域への支援、重債務貧困国(アフリカ諸国等)の債務救済、雇用と成長の問題(サミット参加国)等
 - ・政治:民主化、人権問題、軍縮、地域紛争(ユーゴ問題、コソボ問題等)への対応等
- ④2000年代:世界経済、気候変動、アフリカ開発、テロ等多様化するテーマ

現在のG7/8サミットでは、経済問題だけではなく、安全保障・政治問題・社会問題等の非経済的な問題等、広範なテーマを議論。

5

G7/8サミットの変遷(補足)



【G20サミットについて(これまで9回開催)】

- ・2008年秋の米国発の金融危機に対応するため、第1回サミットを2008年11月に開催。
- ・新興国(中国、インド等)の急成長により、世界経済における影響力が拡大しているため、新興国も含めて議論する必要。
- ・他方、G20サミットは、金融制度をはじめとする経済問題の議論に特化しており、参加国の政治体制や社会環境の違いから、民主主義等の非経済的問題への関与はほとんどない。

近年、新興国の台頭が著しいため、G20はその重要性を増してきているものの、G7/8とG20は、それぞれ中心的課題が異なり、補完関係にある。

また、G7/8はG20と比較して、参加国が少なく、合意形成が容易。

6

過去のサミット



●近年のサミットはリトリート方式により開催（2002年以降）

	開催国	開催地	日本の首相	テーマ
2015年	ドイツ	エルマウ	安倍晋三	ウクライナ情勢を中心とする外交政策、世界経済、エネルギー・気候変動、開発
2014年	ベルギー	ブリュッセル	安倍晋三	ウクライナ情勢を中心とする外交政策、世界経済、エネルギー・気候変動、開発
2013年	英国	ロック・アーン	安倍晋三	世界経済、地域・政治情勢、テロとの闘い、税・マネー・ローンダリング、3T(貿易、税、透明性)
2012年	米国	キャンプ・デービッド	野田佳彦	世界経済、エネルギー・気候変動、アフリカ・食料安全保障、アフガニスタン、中東・北アフリカ情勢
2011年	フランス	ドーヴィル	菅直人	日本との連帯、世界経済・貿易、原子力安全、気候変動、インターネット、中東・北アフリカ情勢
2010年	カナダ	ムスコカ	菅直人	世界経済、開発、アフリカ、国際的枠組みのあり方、平和・安全保障
2009年	イタリア	ラクイラ	麻生太郎	世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカ、政治問題
2008年	日本	北海道洞爺湖	福田康夫	世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカ、政治問題
2007年	ドイツ	ハイリゲンダム	安倍晋三	世界経済、気候変動・エネルギー効率、地域問題・外交政策、アフリカ
2006年	ロシア	サンクトペテルブルク	小泉純一郎	エネルギー安全保障、教育、感染症、世界経済及び貿易、知的財産、開発援助、安全保障及び地域情勢、テロ対策不拡散、人口動態及び社会問題
2005年	英国	グレンイーグルズ	小泉純一郎	世界経済、貿易、知的財産権、気候変動、アフリカ、中東和平、北朝鮮、国連改革
2004年	米国	シーアイランド	小泉純一郎	経済・貿易、地域情勢、安全保障問題、開発
2003年	フランス	エビアン	小泉純一郎	世界経済、持続可能な開発、アフリカ、テロ対策・大量破壊兵器の不拡散・地域情勢
2002年	カナダ	カナナスキス	小泉純一郎	テロ対策、世界経済の成長と持続可能な開発、アフリカ開発

●過去の日本開催

	開催地	日本の首相	テーマ
2000年	沖縄	森喜朗	IT、開発、貿易、文化の多様性、犯罪、生命科学、環境、地域情勢、グローバル・イシュー
1993年	東京	宮澤喜一	世界経済、貿易、環境問題、開発途上国支援、大量破壊兵器の不拡散、国連の強化
1986年	東京	中曽根康弘	世界経済、貿易、開発途上国支援、食料問題、自然環境保全、テロ対策、原子力
1979年	東京	大平正芳	世界経済、貿易、石油・エネルギー問題、開発途上国支援、難民支援

7

九州・沖縄サミット(G8)



○開催期間：2000年7月21日～23日

○テーマ

- ・「一層の繁栄」
⇒IT、感染症対策、重債務貧困国救済、貿易、文化の多様性
- ・「心の安寧」
⇒犯罪、生命科学(バイオテクノロジー、ヒトゲノム)、環境
- ・「世界の安定」
⇒地域情勢(朝鮮半島など)、グローバル・イシュー(紛争予防、軍縮など)



【開催地の主な取組等※沖縄県】

- 基本コンセプト「沖縄を世界に発信」「県民総参加型」「自然体」「したたかさ」
⇒「沖縄じょうほう館」の設置、
“美ら海沖縄”2000年サミットクリーンアップ大作戦、「G8高校生サミット」
「小中学生サミット in OKINAWA」「ヤング・リーダーズサミット2000 in 沖縄」の開催、
サミットミュージックフェストの開催 など



8

北海道洞爺湖サミット(G8※)



○開催期間:2008年7月7日～9日

○テーマ

- ・「世界経済」⇒原油・食料価格高騰への対応、金融市場の一層の安定化など
- ・「環境・気候変動」⇒温暖化・資源枯渇等への対処に係る目標、
- ・「開発・アフリカ」⇒保健分野の新たな協力、食料価格高騰問題に対する取組
- ・「政治問題」⇒北朝鮮、イランの核問題、アフガニスタン、中東和平など

(※G8のほか、アフリカ諸国首脳との拡大大会、主要経済国首脳会合も開催)



ロゴマークは、
三重県の特別支援
学校の生徒作品

【開催地の主な取組等】

○テーマ

- ・「開催支援」⇒インフォメーション機能の整備、宿泊予約センター開設、
地域住民懇話会、公式行事での歓迎交流など
- ・「北海道発信」⇒ポータルサイト、情報誌、プレスツアー、北海道情報館の開設 など
- ・「おもてなし」⇒クリーンアップ運動の展開、道産食材の利用促進 など
- ・「未来」⇒子ども達を対象とした環境サミット、J8サミット参加者と道内高校生
等との交流、ガイアナイト(電気を消して、ローソクの灯りの中で環
境問題等を考える)の開催 など



9

開催決定時の安倍首相の発言要旨



<6月5日(金):エルマウ・サミット出発前の羽田空港での会見>

・日本の美しい自然、豊かな文化、伝統を世界のリーダーたちに肌で感じてもらえる、味わっていただける場所にしたい。

・伊勢神宮は悠久の歴史を紡いできた。たくさんの日本人が訪れる場所で、日本の精神性に触れていただくには大変良い場所だ。G7のリーダーたちに訪れていただき、伊勢神宮の荘厳で凜とした空気を共有できればよい。

・大小の島々、美しい入り江。志摩には日本の原風景とも言える美しい自然がある。日本のふるさとの情景を、リーダーたちに肌で感じていただきたい。あの絶景を共に楽しみたい。



<6月8日(月):内外記者会見>

・眼下に広がる志摩の豊かな海は、太平洋から、インド洋までつながっている。アジアやアフリカのたくさんの国々の思いを胸に、日本は、議長国として、世界の平和と繁栄のため、世界のリーダーたちと率直に話し合いたいと思う。



眼下に広がる志摩の豊かな海は、太平洋からインド洋までつながっています

首相官邸HPより

・伊勢神宮を始め、日本の伝統や文化、美しい自然を、存分に味わっていただきたい。日本の「ふるさと」の素晴らしさを、世界に発信する機会にしていきたいと思います。

10

伊勢志摩サミット開催の背景



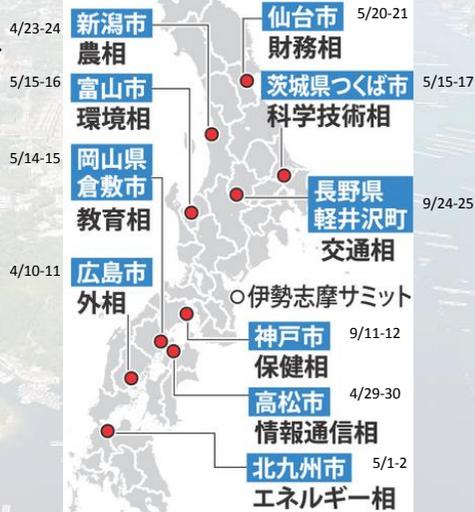
1. 地方創生の動き

○ 2014年9月、地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するため、「地方創生担当大臣」及び「まち・ひと・しごと創生本部」を設置。

○ 地方創生は、①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、②「東京一極集中」の歯止め、③地域の特性に即した地域課題の解決をその主な目的とする。

○ こうした中、伊勢志摩サミットにおいては、10の関係閣僚会合を開催予定。これは国内開催のサミットでは過去最多であり、安倍内閣が掲げる地方創生につなげる狙いも。

2. 伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催地



11

経済効果①



◆九州・沖縄、北海道洞爺湖の各サミット

平成27年6月9日朝日新聞朝刊

九州・沖縄サミット

- ・名護市の2014年度の宿泊者数124万人(00年から倍増)
- ・「かりゆし」の製造枚数 00年:11万枚→13年:43万枚(4倍増)
- ・市商工観光課「サミットで観光地としての知名度が上がった」

経済効果
約440億円
(開催前の試算)

北海道・洞爺湖サミット

- ・洞爺湖町の2014年度の宿泊者数 08年度より9%少ない62万人
- ・サミット会場になったホテルは昨年、売却された
- ・地元観光協会「サミットがなければもっと減っていたかも」

経済効果
約350億円(試算)

◆伊勢志摩サミット

百五経済研究所

- ・直接効果:全国では**510億円(うち三重県内は130億円)**
(直接効果。国・県の直接関係予算を270億円と想定)
- ・ポストサミット効果:5年間で**1,110億円**
外国人観光客数の増加による効果 185億円(年間)
国際会議の開催件数の増加による効果 37億円(年間)
(参考)国内観光客数の増加による効果 495億円(年間)

大和証券

- ・観光消費額が5年間で累積**1,750億円増**
(ポストサミット効果。洞爺湖サミットは122億円。
奈良県と同程度の訪日外国人/日本人比率を想定。県の訪日外国人観光消費額が平成25年の22億円の17倍の369億円程度、2020年には倍の700億円程度と期待)

12

経済効果②



夏休みの旅行客が増加

- ◆平成27年8月末
延べ宿泊者数 **1,244,940人泊**
対前年同期比**18.4%増**
(対前年同期比 全国平均 **2.9%増**)

シルバーウィークの 旅行客が急増

- 楽天トラベル: 宿泊予約数の増加率が
三重県全国3位。
- 志摩エリアは昨年同時期に比較し
7倍以上の増加。(7月22日)

みえ旅プレミアム旅行券 売れ行き好調!!

- 楽天トラベルでは、販売初日(5月30日)
と比較して、サミット決定翌日(6月6日)の
予約件数が2倍に増加。
- コンビニで販売する旅行券(1万枚)は
4分で完売。(6月16日)

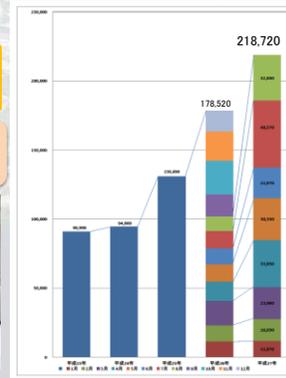
報道機関による知事イン タビューの件数も増加

平成26年度上半期・・・12件
平成27年度上半期・・・30件



外国人旅行客が増加

- ◆平成25年 130,890人泊(累計)
- ◆平成26年 178,520人泊(累計)
対前年比36.4%増
- ◆平成27年8月末 **218,720人泊(累計)**
対前年同期比**114.3%増**
伸び率は2ヶ月連続で全国第1位
(対前年同期比 全国平均 **52.4%増**)



13

伊勢志摩サミットと過去のサミットの違い



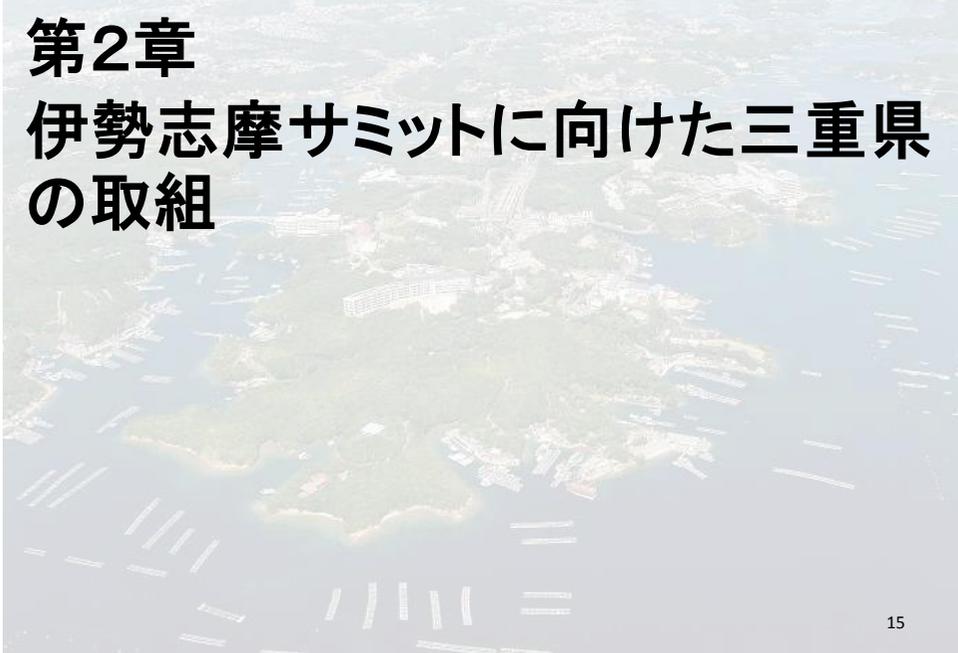
1. はじめての「普通の地方」開催
 - ・ 国、県、民間の役割分担
2. 到着県と開催県が異なる
 - ・ 歓迎、警備
3. 一泊二日(沖縄、洞爺湖は二泊三日)
 - ・ 各種プログラムの制約=工夫の可能性

14

第2章



第2章 伊勢志摩サミットに向けた三重県の 取組



三重県の取組



「伊勢志摩サミット」の成功に向けて

3つの成功要因

- サミットを**安全・安心**に開催
- サミットに**全県的に取り組む**
- サミット開催を一過性のものとせず、**次世代にサミットの資産を残す**

伊勢志摩・三重県の知名度向上や国際観光地としてのレベルアップのみならず、**地域の総合力向上**につなげる

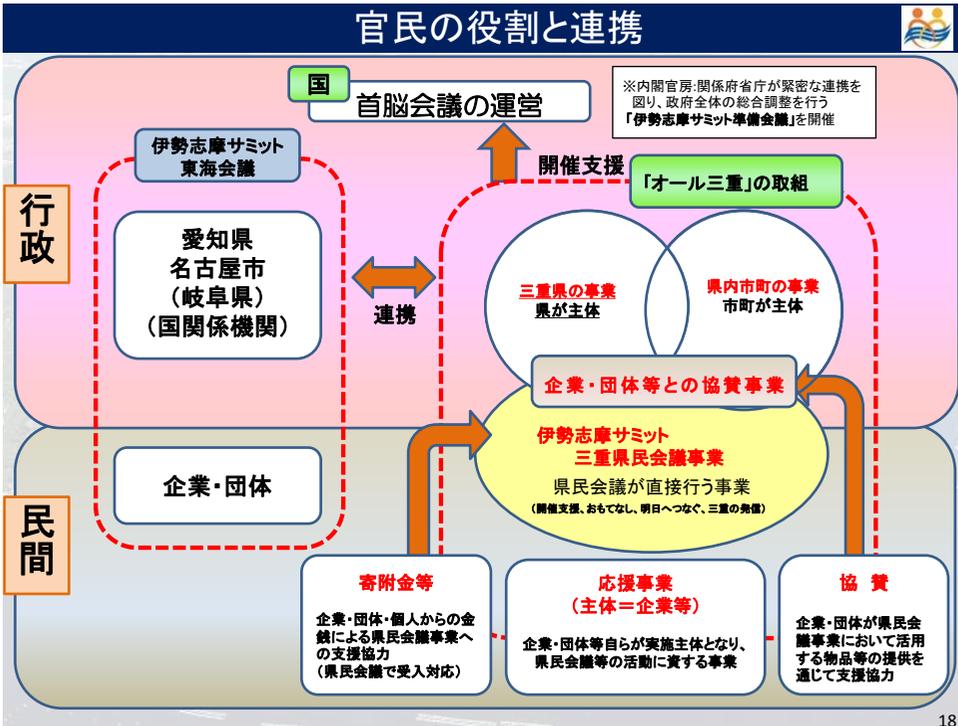
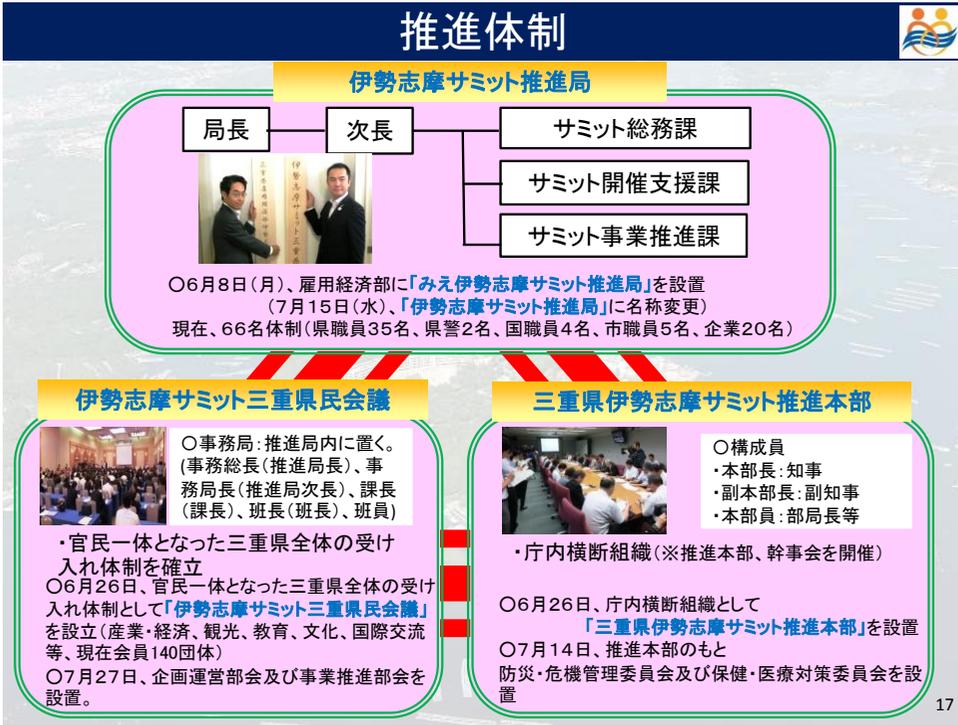


「伊勢志摩サミット」取組の基本方針（4本柱）

- 開催支援** ～万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる～
- おもてなし** ～歴史に育まれたあたたかい心で、世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う～
- 明日へつなぐ** ～子どもたちをはじめ県民が主役となって世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ～
- 三重の発信** ～美しい自然、豊かな文化・伝統など、わたしたちが誇りに思う三重を発信する～

伊勢志摩サミットの全体像

主要国首脳会議のほか配偶者プログラムやジュニアサミットなど国が行う公式プログラムのみでなく、伊勢志摩サミット三重県民会議が行う事業や、県、市町が独自に実施する関連事業も含めたものを、伊勢志摩サミットの全体像と捉え、サミット成功に向けて取り組む





① サミットを安全・安心に開催するための取組

サミットを安全に開催するために①



官民挙げてのテロ対策の実施へ

伊勢志摩サミットを狙ったテロを未然に防止する

テロ対策三重パートナーシップ
推進会議の設立(10/28)

41機関が参加

県警察本部・消防
自衛隊・海上保安庁
官公庁(国・県・市町)
鉄道・バス事業者
電気・ガス事業者
通信事業者
地域団体 など

今後の活動

各種訓練の実施
研修・講習の開催
組織拡充・連携強化
情報共有 など

官民一体の日本型
テロ対策の推進

[内閣官房]サミット準備会議
警備の基本方針を決定(9/15)



潜水訓練の実施(11/13)



サミットを安全に開催するために②



万全な警備体制の構築へ

消防・救急体制の強化

あらゆる不測の事態を想定し、事前準備を徹底する

危険箇所の徹底調査

開会前には要所での検問を実施

パリでの同時多発テロを受け、警察本部各部及び県下警察署に指示

情報収集の強化
警戒警備の強化を指示
—三重県警—

機動隊員の訓練の様子

デモ対策等各種訓練

緊急医療体制の構築

医薬品等の供給体制
感染症予防体制
毒劇物監視体制
食品監視体制
などを強化する

全国初！
ドローン規制条例制定

- ・賢島から半径1.5kmを飛行禁止区域とする予定
- ・本年1月27日施行予定

伊勢志摩サミット県・市町災害対策会議の設立

災害時に連携体制を
県内市町が構築




21

住民懇話会の開催について

伊勢志摩サミット開催地周辺の「伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町」の住民の皆様を対象として、サミットに関する情報を伝える「住民懇話会」を開催します。

実施者

- ・三重県伊勢志摩サミット推進局
 - ・三重県警察
 - ・第四管区海上保安本部
 - ・伊勢市、鳥羽市、志摩市及び南伊勢町
- 他、必要に応じて協力いただきます。

開催日程・対象・内容 ※ 調整中のため変更になることがあります。

	第1回	第2回	第3回
日程	11月中旬から12月上旬	平成28年2月中旬から下旬	平成28年4月下旬から5月上旬
対象	4市町の自治会長	4市町の住民等	

内容

- ・各機関の伊勢志摩サミットに関する取組概要説明
- ・質疑応答



弁当供給体制の整備



伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心な食事を大量に継続して供給するための体制を整備。

整備する2つの供給体制

- (1) 屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要(以下、大規模需要)への対応
- (2) 屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要(以下、小規模需要)への対応

(1) 大規模需要への対応について

平成28年3月から5月にかけて、伊勢志摩地域を中心に県内各地に配置される警備関係者等からの大規模な弁当需要に対応するため、企画提案コンペで、業務実施事業者を選定する。

事業者の選定方法：企画提案コンペ

業務内容：弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

平成28年3月～5月に計65万食(想定)を提供

選定方針：万全の食品衛生管理体制の確保

県内事業者の参画(配送エリアによる地区分け)

県産食材の活用

公募期間：平成27年10月30日から11月30日

実施状況：説明会参加者 約30名

提案事業者数 5者

○実施事業者

【A地区】志摩市

(1日あたり最大想定供給数 21,000個)

・(株)ローソンを代表とする4社による
共同事業体

【B地区】伊勢市、鳥羽市、津市等

(1日あたり最大想定供給数 5,000個)

・(株)セブン-イレブン・ジャパンを
代表とする9社による共同事業体

(2) 小規模需要への対応について

食事を提供できない宿泊施設、国際メディアセンター内の支援事業者等、比較的小規模な弁当需要に対しては、地元の弁当製造事業者による供給が行えるよう、両者のマッチングを促進する。

23

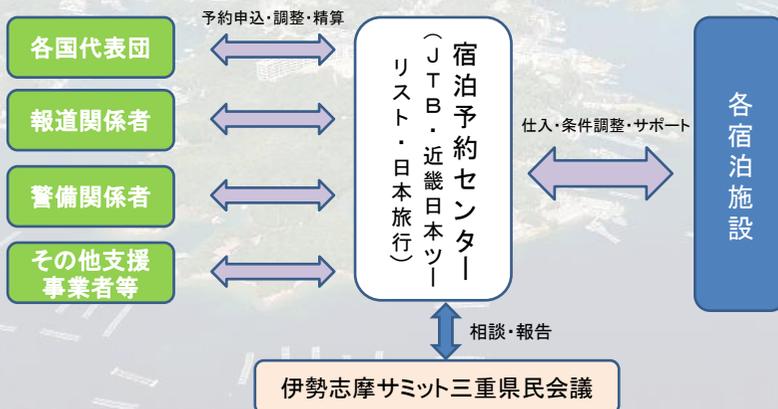
宿泊予約センター



○宿泊予約センターでは、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供する。

○また、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

※北海道洞爺湖サミット宿泊予約センター取扱実績：1日あたり最大約2万5千人、延べ約50万人



24

サミット開催に向けた社会資本整備



○三重県では、平成27年9月補正で、サミット開催に向けた社会資本整備として、単年公共事業により約54億円を計上。

○主な整備内容

(1) 要人・関係者のための整備

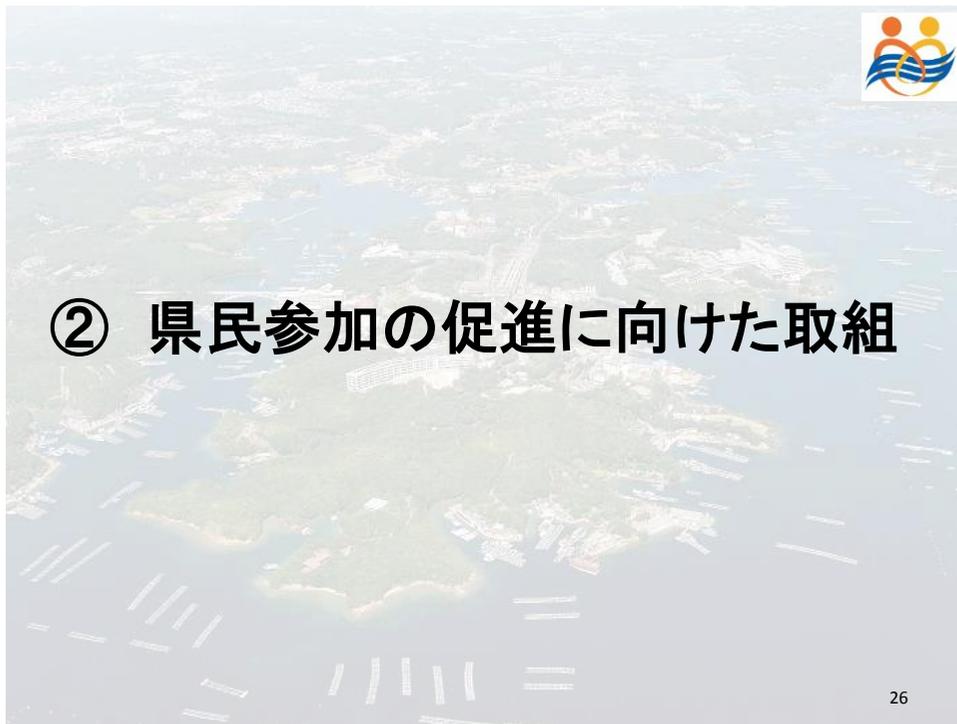
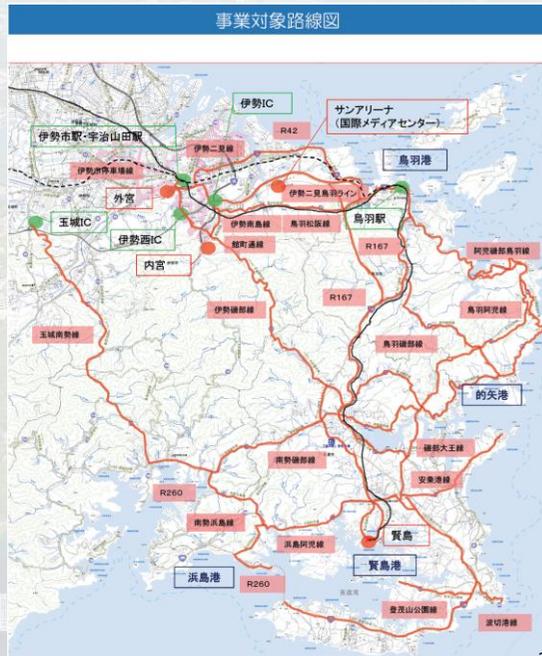
- ① 走行性を確保し、移動時間を短縮するための舗装整備
- ② 危険物の設置可能性を排除するための河床整理や河川除草
- ③ 警備上の視認性を確保するための照明灯・監視カメラの設置等

(2) 国内外からの来訪者のための整備

- ① 英語標記の標識の設置
- ② 美しい風景を確保するための港湾遊歩道の景観整備、沈没船の撤去、景勝地における伐木、橋梁の再塗装等

(3) 住民生活への影響低減のための整備

交通規制等に伴う一般車両の迂回路における、地域住民の安全を確保するための歩道整備等



② 県民参加の促進に向けた取組

外国語案内ボランティア



○目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、三重県を訪れる外国人報道関係者の方々を、おもてなしの心で歓迎し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、国際メディアセンター(三重県営サンアリーナ)や県内主要駅に設置する予定のインフォメーションセンター等で、外国語による交通や観光等の案内及び三重県の情報発信等を行う。

○活動場所

国際メディアセンター(三重県営サンアリーナ)、名古屋駅、津駅、津なぎさまち、松阪駅、伊勢市駅、近鉄宇治山田駅、鳥羽駅、近鉄鶴方駅等(予定)

○活動人数

300名程度

○活動期間

平成28年5月20日～5月28日(予定)

○応募条件

- ①年齢 平成28年4月1日現在15歳以上の方
- ②語学 英語により、上記活動を行える方
- ③事前研修 2～4月に実施する研修に参加可能な方 等

※平成27年10月30日～12月10日まで募集し、1003名の応募がありました。



【問い合わせ先】

伊勢志摩サミット外国語案内ボランティア事務局(公益財団法人三重県交際交流財団内)
TEL: 059-223-5006 FAX: 059-223-5007 E-mail: mief@mief.or.jp

27

伊勢志摩サミットへのご支援のお願い



伊勢志摩サミット三重県民会議が実施する事業に県内外の企業、団体、個人の皆さんと共に取り組むことを目的として、協賛、応援、寄附を募集しています。

伊勢志摩サミット三重県民会議へのご支援の方法

協賛	県民会議が実施する事業への物品の提供等によるご協力をお願いします。
応援	皆さんが自主的に取り組まれる事業による応援をお願いします。
寄附	県民会議が実施する事業への寄附金によるご支援をお願いします。

協賛、応援、寄附の申込状況 (H28. 1. 24時点)

協賛	応援	寄附
70件(うち登録63件)	472件(うち登録442件)	合計 393件 410,815,838円
取組事例 ・県民会議が実施する各種イベントへの飲食等の提供 ・クリーンアップ活動と時期を合わせた環境美化活動の実施	取組事例 ・店舗、施設等へのポスター掲示 ・サミットデザイン商品の販売 ・商品等へのシンボルマークの掲載 ・カウントダウンの取組	内訳 【法人】217件 390,719,690円 【個人(一般)】95件 19,781,538円 【個人(クラウド)】81件 314,610円

申込先

〒514-0004 三重県津市栄町2-380 HOWAビル津4階
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局 総務課
TEL 059-253-5491 FAX 059-253-5498 E-mail summit@pref.mie.jp
※申込書等は県民会議HP (<http://www.pref.mie.lg.jp/miesummit/kifu.htm>) からダウンロードできます。

三重県にゆかりのある多くの皆さんからご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

28

伊勢志摩サミット開催に向けた広報全体計画



1 基本的な考え方

- ① 県内外の一般およびプレス関係者など全てのステイクホルダーにとって分かりやすい、開催までの節目日(200日前、100日前等)を展開軸とする。
- ② 節目日を含む概ね1週間を、「〇〇日前ウィーク」と設定。県および県民会議の自主事業や市町連携事業さらには応援事業等の広報要素を、「〇〇日前ウィーク」の中に束ねる計画としていく。
- ③ およそ50日間隔の「広報・発信のリズム」「広報のヤマ場」を創ることにより、広報のテーマ浸透や県民参加などの各種活動を活発・推進させたい。
- ④ 上記に合わせて、各部局および県内企業の独自事業についても、各節目期での開催を呼びかける。

2 各節目時期の主な活動

◆ 100日前(2016年2月16日(火))<100日前ウィーク;2月13~19日>(※調整中の案件を含む)

- ・国際フォーラムの開催
- ・「美し国みえ市町対抗駅伝」でのPR(2月21日(日)、津~伊勢)
- ・クリーンアップ活動キックオフイベント(東海3県1市も検討)

◆ 50日前(2016年4月6日(火))<50日前ウィーク;4月3~9日>

- ・第3回サミットフォーラム
- ・4月16日「県民の日」イベント
- ・公募デザインによる第4弾ポスター掲出開始
- ・花いっぱい運動飾花キックオフイベント

◆ 30日前(2016年4月26日(火))<30日前ウィーク;4月23~29日>

- ・伊勢志摩サミットPRバージョンの関東・中部・東北宝くじ販売
- ・こどもの日イベント

◆ 10日前(2016年5月16日(月))<10日前ウィーク;5月13日~19日>

- ・県内一斉清掃活動

29

カウントダウンボードの設置



150日前ウィークには、県外の皆様にサミット開催に興味を持っていただくため、カウントダウンボードを県外に設置するとともに、企業の皆様にも応援事業として県内設置に協力をいただいた。

カウントダウンボード設置場所と台数

150日前ウィークで設置したカウントダウンボード	
外務省、内閣府	2台
鉄道駅構内(近鉄名古屋駅、近鉄京都駅、大阪難波駅)	3台
伊勢市役所	1台
その他、企業の応援事業 (三重交通グループ、中日本高速道路、津松菱)	45台
150日前までに設置されたカウントダウンボード	
伊勢志摩サミット三重県民会議が設置	82台
その他、企業等の応援事業として設置	385台



カウントダウンボード除幕式(H28.1.8)
(於:外務省)

計:518台

30

サミット開催200日前イベントの実施



○11月8日が伊勢志摩サミット開催200日前となることから、多くの方々がサミット及びサミット参加国への理解を深める機会を創出し、歓迎機運の醸成やサミットの認知促進を図るため、関連イベントを開催。

○特に、全県的な参加意識の向上を図るため、サミット開催地周辺にとどまらず、イオンモール東員でカウントダウンボードの除幕式、恵利原早餅つき、みえの国観光大使である吉田沙保里さんのトークショー、各種パネル展示、三重テレビの伊勢志摩サミットご当地検定クイズ、三重県出身のSKE48トークショーなどを行った。

イオンモール東員 の イベント

- 9:40～ 恵利原早餅つき
- 10:05～ B・BWAN WANSIによる琴の演奏
- 10:10～ カウントダウンボード除幕式
- 13:00～ 吉田沙保里トークショー
- 15:30～ 三重県出身SKE48トークショー

このほか、各種パネル展示、三重テレビ「伊勢志摩サミットご当地検定クイズ」、三重県ご当地キャラグリーティング&撮影会、ワークショップ「アイロンビーズdeG7キーホルダー」、伊勢志摩エコバッグ作り、G7の国旗フェイスシールプレゼントなどを実施。



31

サミット開催150日前イベントの実施①



12月28日が伊勢志摩サミット開催150日前となることから、首都圏をはじめ、全国的な話題性の向上を図るとともに、県外の皆さまにサミット開催に興味を持っていただくべく、様々なイベントを開催。

特に首都圏でのメインイベントとして、三重テラスにおいて首都圏の方に伊勢志摩サミット及び開催地である三重について知っていただくため、三重県産食材を使った振る舞いや、試食・試飲会及び物販など食を体感できるイベントと、サミットトークセッションを実施。

三重テラスでのイベント

①三重の誇り！食をよくばり体感！

日時：12月27日（日） 13時～16時
志摩市長による伊勢まぐろ解体ショー
松阪牛の試食
県産いちごやみかんの販売など



②伊勢志摩サミット開催150日前記念トークセッション

日時：12月28日（月） 13時～14時
司会：タレント 大西敬子
出席者：みえの国観光大使 堀口文宏
外務省職員 溝渕将司
県民会議会長 鈴木英敬
テーマ：伊勢志摩サミットとは
サミット開催で三重県はどう変わる



32

サミット開催150日前イベントの実施②



三重テラスでのイベントの他にも、150日前イベントとして様々な事業を展開。

第3弾ポスター発表

「サミット開催に向けてのおもてなしの心」としてデザインを公募し、第3弾のポスターを決定・発表。



カウントダウンボードの県外設置

外務省、近鉄各駅(難波駅、京都駅、名古屋駅)、伊勢市役所に5台、また企業等の皆さまからの応援事業として45台を、新たに各地へ設置。

既存のものと一緒に、総計517台のカウントダウンボードの設置となった。



近鉄名古屋駅への設置

懸垂幕・横断幕の設置

サミット開催までちょうど150日前となる12月28日、県内29全ての市町村舎及び11の県庁舎で懸垂幕・横断幕を設置。



33

伊勢志摩サミット三重県民会議シンボルマーク決定(10月13日)



伊勢志摩サミット
三重県民会議

シンボルマーク作成にあたっては、北勢きさら学園在校時の作品が2008年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された近藤敦也さんに依頼し、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信。

作者コメント

手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表現しています。

波線は、世界の人々と三重県の人々のつながりのタスキを表現しています。

サミットで培われたあたたかなつながりを次世代へ受け継いでいこうという決意を込めています。



シンボルマーク決定(H27.10.13)
(於:伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会)

34

ポスターの展開



三重県での伊勢志摩サミット開催や県民会議の活動をPRするため、計画的にポスターを展開する予定。



35

花いっぱいおもてなし運動



伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々に、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型のおもてなし運動を展開します。

サミット開催50日前ウィークにキックオフ

おもてなしの心と
美しい花々で歓迎

- 県民の皆さんに、花に親しんでもらうための体験講座などを企画
 - ・平成28年4月(50日前ウィーク周辺)に県内全域で開催予定
- 市町、企業、団体、県民など多様な主体による花いっぱい活動の集約
- 関係団体や企業等の多様な主体が支える運動として展開
 - ・飾花活動等に取り組む(応援)
 - ・資材や技術、ノウハウ等を提供(協賛)

◆活動事例



(東員町役場 シンボルマークをデザイン)

36

クリーンアップ活動(環境美化・清掃活動)の展開について



クリーンアップ活動では、来訪者により快適な滞在環境を提供し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民の皆さんが来訪者歓迎に関わることで、機運醸成や参加意識の向上を目指す。

<取組方針>

市町や自治会、関係団体・企業の皆さんが現在実施しているクリーンアップ活動を活かし、全県的な取り組みとして展開していく。

また、県民参加の機運醸成のため、キックオフイベント等を実施することで、一体感と発信力を高めていく。

<事業内容>

キックオフイベント

サミット開催100日前イベントとして、クリーンアップ活動のキックオフイベントを実施予定。

県内一斉美化活動

平成28年5月を県内一斉美化活動期間とし、全県的に実施予定。



37

③ 次世代にサミットの資産を残すための取組



38

ジュニアサミット

「2016年ジュニア・サミット in 三重」(主会場:桑名市)

《ジュニアサミットとは》

国が主催するサミットの関連公式行事であり、G7を代表する15歳～18歳の中高生等が集まり、サミットで取り上げられる国際問題について話し合い、政府首脳に成果文書を提出する。

《プログラム(暫定)》

- 4月21日(木)桑名市到着
- 4月22日(金)開会式、会議
- 4月23日(土)会議、視察
- 4月24日(日)交流行事
- 4月25日(月)会議
- 4月26日(火)会議、閉会式、東京に移動
- 4月27日(水)政府首脳に成果文書提出(27日又は28日)、都内視察
- 4月28日(木)同上
- 4月29日(金)東京出発

《会議(討議)テーマ(予定)》

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会

《三重県が提案している会議(討議)に資する視察先》

四日市公害と環境未来館、(公財)国際環境技術移転センター(ICETT)、(株)東芝四日市工場、(株)マーク・コーポレーション、中部電力(株)川越火力発電所・川越電力館テラ46、御在所岳、赤須賀漁業協同組合、輪中の郷、うれし野アグリ(株)、JFEエンジニアリング(株)津製作所

2016 ジュニアサミット
開催提案書

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～



平成27年9月17日
三重県

多様な主体による国際理解・国際交流

国際理解・国際交流プログラム

県民会議事業

コンセプト

伊勢志摩サミット三重県民会議では、サミット開催を契機として、県民の皆様にも、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、楽しみながら学べるプログラムを実施。

対象

三重県内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、行政機関、企業、各種団体等

主なプログラムの例

- 参加国の料理を作ってみよう
- 参加国の生活についてのクイズに挑戦
- 親子で参加国の遊びを体験してみよう

募集期間及び実施期間

- 募集期間 平成27年11月13日～平成27年12月21日
 - 実施期間 平成27年11月16日～平成28年 3月16日
- 全90回の募集に対し申込196回分(平成27年12月末までに46回分実施)

全90回



「イチからわかる！サミット塾」

外務省事業

コンセプト

次世代を担う子ども達にも、外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、三重県内の小中高등학교に若手の外務省職員を派遣し、サミットの説明もしながら、世界のことから身近なことまでわかりやすい授業を行う。

対象

三重県内の小(原則高学年)中高等学校

募集期間及び実施期間

- 募集期間 平成27年11月30日まで
 - 実施期間 平成27年12月～平成28年3月
- 申込31校(平成27年12月末までに10校で実施)

サミットや外交をわかりやすく説明

- 「首脳」ってどんな人？
- 日本は世界がよりよくなるために、何ができるんだろう？
- など

国への提案・要望 - 各国首脳による記念植樹等 -



各国首脳による記念植樹の提案

三重県

2016年の主要国首脳会議が「自然との共生」が再認識できる伊勢志摩地域で開催されることとなりました。また、過去のサミット開催場所となった沖縄や北海道では記念植樹が行われてきました。

本県においても、ご来県されるサミット参加各国首脳による記念植樹を実施していただき、伊勢志摩サミット開催記念及び開催地としてのシンボルにしていきたいと考えており、その実施について提案します。

○植樹する苗木:「県の木」である「神宮スギ」



配偶者プログラムの提案

三重県

伊勢志摩は、日本人の心の「ふるさと」として、伊勢神宮や海女文化といった日本の精神性、多様で豊かな伝統・文化、また、英虞湾など日本の原風景ともいえる美しい自然等を数多く有しています。

配偶者の皆様方に三重を通じて日本を感じていただくべく、訪問いただきたい場所・実施していただきたい内容を三重県として選定しましたので、提案します。

○テーマ :「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
○キーワード:「多様性」「持続性」「獨創性」「女性」「食」

県産食材等、県産品及び伝統工芸品の活用要望

伊勢志摩サミット三重県民会議 三重県

＜県産食材等について＞

「御食国(みけつくに)」として古くから朝廷に海産物を献上してきた三重県は、豊富な食材に恵まれており、「食」の宝庫といえます。

伊勢志摩サミットにおいては、首脳や配偶者をはじめ、世界中からお集まりいただく多くの方々に、三重の「食」を堪能していただくことで日本の食文化に触れていただき、また、「食」を通じて、豊かな自然や人々の営みに思いを馳せていただきたいと考えています。

○三重県が誇る県産食材、加工食品、日本酒について、積極的に活用いただきますよう、要望します。

＜県産品及び伝統工芸品について＞

首脳会議場等におけるしつらえに向けても、以下のとおり活用いただきますよう、要望します。

○首脳会議場における円卓など、サミットに係る備品・・・尾鷲ヒノキ等の三重県産材

○首脳会議場における備品や食事の際の食器等・・・三重県の伝統工芸品

○首脳会議場等の装飾品に使用される花き花木・・・三重県の花き花木



尾鷲ヒノキ



伊勢茶



松阪牛



伊勢うめ



伊勢くみひも



伊勢しめじ



鈴鹿琴



四日市高古焼



伊賀焼



さつき

41

プレス等を活用した情報発信(プレスツアー)



国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県の魅力を国内外へ発信。

三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立と浸透を図るとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

プレスツアー、ファムトリップ

①県民会議主催のプレスツアー(3回を予定)

・第1回 平成27年12月7日、8日

伊賀エリア等(モクモク手作りファーム、伊賀流忍者博物館、木の子の里、うれし野アグリ、アグリ農園)

・第2回 平成28年2月頃 東紀州地域での実施に向けて調整中

・第3回 平成28年春頃 中南海方面を中心としたエリアで実施を検討中

②外務省等主催のプレスツアー(複数回)

③海外メディアやエージェントのファムトリップ(複数回) など

■プレスツアー実績(外務省主催)

実施日	対象プレス	概要
平成27年8月21日	ASEAN	環境未来館や企業を訪問し、公害問題とその対策を取材
平成27年8月30日、31日	中東	伊勢神宮、おかげ横丁、海の博物館等を取材
平成27年10月30日、31日	ベルギー	伊勢神宮、おかげ横丁、ミキモト真珠島、海女小屋を取材
平成27年11月14日、15日	イスラエル	答志島、河武醸造、頭之宮四方神社を取材



ASEAN



中東

42

海外著名人や海外メディアを活用した情報発信事業について



サミット開催を契機とし、海外著名人や海外メディア等を活用して、三重の誇る食や文化等を発信。

海外著名人招へいプレスツアーの実施

海外で発信力のある人物を三重県に招へいし、その人物に同行する形で海外メディア等のプレスツアーを実施し、著名人の語る三重の魅力を海外プレス等から世界に発信していただく。
著名人の招へいと合わせて、海外プレスツアーを1回以上実施する予定。

海外メディア等へのプロモーション事業

新聞、雑誌、機内誌等への記事広告等の掲載により、三重の魅力を世界に発信します。
海外有力メディアを活用した記事広告等の掲載を3回以上行う予定。

開催効果を一過性にする事なく、開催後の三重県の認知度向上、国際観光地としてのレベルアップ、ブランドイメージの確立・浸透を図り、来訪者の増加や県産品の販売増加に繋げる。

首都圏におけるPR① 伊勢志摩サミット開催レセプション ～三重へのいざない～



10月27日(火)、外務省飯倉公館において、三重の地に静かに息づく自然や伝統と、世界をリードし未来を動かそうとする革新の技を、【日本の原風景・心のふるさと三重】、【常に新しく、未来を生み出す三重】の2つのテーマで展開し、駐日外交団、駐日商工会議所、外国プレス等の方々に、サミット開催地三重の魅力・ポテンシャルを体感していただきました。

【日本の原風景・心のふるさと三重】

【常に新しく、未来を生み出す三重】



エントランス
江戸時代から続く伊勢のおもてなし
赤福茶屋(試食・呈茶)

日本が誇るものづくりの技術がお出迎え
F1マシン(マクラーレンホンダ)



御食つ国のおもてなし

地酒・松阪牛・伊勢えび・熊野地鶏・南紀みかん・伊賀コシヒカリ・伊勢茶 etc

三重で育まれた自然・伝統・文化を体感

- ・真珠
- ・海女文化
- ・伊賀くみひも
- ・伊勢形紙



金箔装飾

自然の恵み
×
人の技術
×
アート

三重が世界に誇る最先端技術を表示

- ・小型旅客機MRJ模型
- ・NAND型フラッシュメモリ
- ・超低消費電力テクノロジー使用のLSI製品
- ・有機薄膜太陽電池



高校生レストラン

三重の食 × 三重の未来を担う高校生



ステージパフォーマンス

伊勢志摩の自然・文化に触れる映像 AUN-J(AUN J-CLASSIC ORCHESTRA)による和楽器演奏



エンディング

荷物にならない伊勢みやげ「伊勢音頭」



首都圏におけるPR② 知事会見等



10月27日(火)の外務省飯倉公館での伊勢志摩サミット開催レセプションを皮切りに、国内外のメディアに対し伊勢志摩サミットとサミット開催地である三重県・伊勢志摩のPRを行った。

国内報道機関を対象とした 三重県知事会見

日時:平成27年11月11日(水) 15時30分から
場所:日本記者クラブ(東京都千代田区)



- 三重県の最近の動静
- 三重県の紹介(伊勢志摩国立公園、神宮、賢島等)
- 伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組

海外報道機関を対象とした 三重県知事ブリーフィング

日時:平成27年11月18日(水) 12時から
場所:日本外国特派員協会(東京都千代田区)



- 三重県の魅力発信
- 伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組

国内外プレスに対し、プレスツアーによる取材機会の確保や三重テラス等での継続的な情報発信を行い、三重県への来訪と取材活動を促進する

45

日本貿易振興機構(ジェトロ)主催経済セミナー



(1)日時:平成27年9月28日(月)9時00分~11時10分

(2)場所:ニューヨーク・アスレチック・クラブ

(3)参加者:
安倍総理大臣、鈴木英敬三重県知事、林文子横浜市長等の他、現地企業関係者、メディア関係者等、計約300名

(4)概要

ジェトロ主催のセミナーは、2016年の伊勢志摩サミット、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて高まりつつある日本の魅力を発信することを目的に開催。当日は、現地企業関係者、メディア関係者、政府関係者等、約300名が出席し、自治体からは三重県のほか、横浜市がプレゼンテーションを行った。

三重県単独では集められないようなそうそうたるメンバーが集まる中、主に

- ①三重県の素晴らしさやポテンシャル
- ②サミットにおいて三重県から発信するメッセージやサミットを通じた三重県のビジョン
- ③シンガポール、マレーシア、中国などアジア地域と比べた三重県のビジネス環境の優位性の3点について、プレゼンテーションを行った。

また、会場では三重県のブースを出展し、ポスター掲示やポストカードの配布等を通じて伊勢志摩サミットをPRするとともに、伊勢茶の試飲等を通じた「伝統文化」のPR、NAND型フラッシュメモリー等の「革新技術」のPR等を行った。



46